

Couture Collection Spring/Summer 2024

UTAKATA

Photography location : Crete, Greece
Yuima Nakazato

本コレクションは、2月21日にスイスのGrand Theater Geneve(※1)にて公開のオペラ、
「IDOMENEO」(イドメネオ)と公式に連動したものである。
IDOMENEOは、モーツァルトが1781年に作曲したオペラである。古代ギリシャ戦争禍の人間模様を
描く物語の新版は総合演出をベルギー人の振付家シディ・ラルビ・シェルカウイ(※2)が行い、
現代アーティストの塩田千春が舞台美術を、そして中里唯馬が衣装を手掛ける。
また、本ファッションショーの演出はシディ・ラルビ・シェルカウイとの共創によるものである。

デザイナーズ・ステートメント

私は、このオペラの衣装をデザインするにあたり、IDOMENEOの舞台となった地中海に浮かぶ島、ギリシャ共和国・クレタ島を訪れた。目の前に広がる、透き通るターコイズブルーの海と島中に生い茂るオリーブの木々、その美しい景色の中で繰り広げられたミノア文明時代のトロイア戦争へ思いを馳せ、そこから数千年の時を越えた現代社会を見つめ直したことが、このコレクションの出発点となった。

リサーチの道中に出会った、古代遺跡から出土された甲冑の美しさに目を奪われた。戦いのために設計されたとは信じ難いほどに美しいものだった。なぜ、戦うための装いに、美しさが必要だったのか。私はヒントを求め、パリにある軍事博物館を訪れ、5000年以上続く男性の服装の進化の歴史を俯瞰してみた。戦いのための装いは、テクノロジーの発展と共に変化する社会の在り方に呼応しながら、その装飾的な要素は徐々に削ぎ落とされ、機能性と合理性の進化をひたすらに繰り返し、現在のミリタリーウェアに至ってきたことがわかる。またそれらは、今日私たちが身につけている多くの衣服の原型でもあるのだ。

一連の制作のプロセスの中で、“儂い”という意味を表す「泡沫(うたかた)」という言葉に辿り着いた。機能性や耐久性といった、現代に至るまで重要視されている、男性の衣服の進化におけるの正解とは対極にあるような言葉だ。私が表現したかったのは、水面の泡のように、繊細で一瞬にして消えてしまうような泡沫な甲冑。それは戦いからの解放や、放棄の意味でもある。

使い古されたユニフォームやワークウェアを粉砕、再生したテキスタイルと、陶器、ガラス、プラチナ製の装飾により生み出された繊細で、儂い甲冑という矛盾した存在を通して、別様でありえた衣服の進化を示す。古代から続く男性服の進化の道筋に、クチュールの繊細で儂い手仕事の要素を融合する試みでもある。そして、男性がこれらの衣服を纏い、オート・クチュールという舞台に立ち現れることには、「有害な男らしさ(Toxic masculinity)」を問い直すと言う意味において時代を象徴するような意味を持つ。

最後に、このショーはシディ・ラルビ・シェルカウイと共に作り上げた、現代との非言語的な対話であり、答えはそこに無く、多様な解釈を許容するものであることを付け加える。

中里唯馬

*1) ジュネーブ・グランド・シアター/ ジュネーブ・オペラ(Grand Théâtre de Genève)

1879年に建設され、スイス最大の芸術舞台であり、ジュネーブ・オペラ・ハウスとジュネーブ・バレエ団の本拠地。40人の歌手からなる独自のオペラ合唱団を採用しており、オペラシーズンにはスイス・ロマン管弦楽団と芸術提携を結ぶ。2019年からアビエル・カーンがジュネーブ大劇場の総支配人を務め、2022年からジュネーブ・バレエ団はシディ・ラルビ・シェルカウイが監督を務める。2020年には年間最優秀オペラ劇団 (Opernwelt) に選ばれた。

*2) シディ・ラルビ・シェルカウイ (Sidi Larbi Cherkaoui)

ベルギー、アントワープ出身の振付家。1976年モロッコ人の父親とベルギー人の母親の間に生まれる。1999年アンドリュウ・ウェイルのコンテンポラリー・ミュージカル「Anonymous Society」で振付家デビュー。多くの振付家とコラボレーションし、2010年1月に会社イーストマンを設立。長年の芸術パートナーとなるダミアン・ジャレとアントニー・ゴームリーとの共同制作により「Foi」「Myth」に続く三部作の完結編として「Babel (words)」を発表、ローレンス・オリヴィエ賞新作ダンス賞および舞台デザイン賞、ブノワ賞最優秀振付賞を受賞している。日本での活動は森山未来と2012「テヅカ TeZukA」に続き2015「プルートゥ PLUTO」でタッグを組んでいる。2014年11月18日ベルギー国王から爵位Commander of Orders of the nameを授受した。

タイトル：ユイマナカザト SS24 クチュール・コレクション 「UTAKATA」

日時：2024年1月24日

発表時刻：パリ時間午前10時

場所：パリ、パレ・ド・トーキョーに於いて発表

Credit

Creative director: Yuima Nakazato
Show direction/choreography: Sidi Larbi Cherkaoui
Show music: Senjan Jansen
Hair and make up: Hirofumi Kera for Shiseido
Solo performance: Pau Aran Gimeno
Piano and song performance: Tsubasa Hori
Casting: Maida Boina
Styling: Yuima Nakazato, Sabine Groza
Show production: Brachfeld
Show video: Premices Film
Runway Photographer: Gio Staiano
PR: KCD Paris

Special Thanks to Ryuichi Sakamoto
Spiber Inc.
Seiko Epson Corporation
La Fédération de la Haute Couture et
de la Mode
Eastman
YUIMA NAKAZATO atelier team